

治水事業

〈全国有数の清流が育む地域の産業と暮らしを守る治水対策を推進〉

後志利別川は、今金町の長万部岳を源とし、幹川流路延長80km、流域面積720km²の道南で唯一の一級河川です。これまで「全国一級河川の水質現況調査結果」で幾度も水質が最も良好な河川に輝いた自然環境豊かな清流河川です。

後志利別川の治水事業は、流域のポテンシャルを活用して「恵み豊かな自然と共生する持続可能な地域社会の形成」や「強靱な国土づくりへの貢献と安全・安心な社会基盤の形成」など北海道総合開発計画の主要施策の推進に資する河川整備を図ります。また、気候変動の影響による災害の激甚化・頻発化に対応し、流域のあらゆる関係者が協働して取り組む「流域治水」を計画的に推進するため、「後志利別川水系流域治水プロジェクト」に基づき、ハード・ソフト一体の事前防災対策を推進します。



「流域治水」の施策のイメージ

1 河川事業

後志利別川河川整備計画に基づき、河道掘削、堤防強化、樋門遠隔化等のハード対策、迅速な避難につながる河川情報の提供等のソフト対策を促進します。

また、堤防や樋門など河川管理施設の機能を保持するため、堤防除草や施設の点検整備等を実施するとともに、防災インフラの管理の効率化・高度化と予防保全（老朽化対策）を実施します。



河道掘削状況

2 ダム管理

平成3年に完成した美利河ダムは、複合型ダムとしては日本一の堤頂長1,480mを誇ります。流域の洪水被害を軽減するための洪水調節、流水の正常な機能の維持、かんがい用水の補給及び水力発電を目的とした多目的ダムです。

美利河ダムでは、治水・利水・環境機能を確保するため、ダム施設の点検整備、観測・操作などを行い、管理の充実を図ります。



美利河ダム

3 魚道整備

平成17年、海域からダム上流域の河川への連続性を確保するため、美利河ダムに2,400mの魚道を整備しました。引き続き、魚類の遡上・降下調査や魚道内魚類分布調査を行います。

治水事業の概要

事業別	地区別等	事業の概要
河川整備事業	河川改修	後志利別川
	河川維持修繕	後志利別川
	堰堤維持	美利河ダム
		河道掘削、堤防強化、樋門遠隔化等
		堤防管理、水閘門等維持管理、河川巡視等
		維持管理及び修繕、点検整備、魚道調査

災害対応への取組

■ 〈TEC-FORCE〉（緊急災害対策派遣隊）

北海道開発局では、大規模な自然災害に際して被災状況の把握や被災自治体等への早期復旧のための技術的支援を迅速に実施することを目的に、「緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）」を設置しています。函館開発建設部では、平成28年台風第10号等で被災した十勝地方等へ過去最大の延べ98名を派遣し、令和2年度は、九州地方の7月豪雨で延べ5名を派遣しました。

被災地への排水作業、給水支援、道路清掃作業のために保有する機械等の派遣も行っています。

また、重大災害が発生又は発生のおそれがある場合に、「災害情報や支援の要望等の情報収集」「開発局で収集した災害・被災情報等を提供」「TEC-FORCEや災害対策機械派遣等に関する連絡調整」などを行うため、自治体への現地情報連絡員（リエゾン）を派遣しています。

TEC-FORCE 活動状況



令和2年九州豪雨：現地調査（熊本県八代市）



令和2年九州豪雨：自治体報告（熊本県八代市）

■ 北海道開発局 災害対策用機械

災害時に備え、各種災害対策用機械等を函館開発建設部管内で7台、北海道開発局管内全体では91台保有し有事に対応しています。

- ・災害対策用
ヘリコプター 1機（北海道開発局）
- ・衛星通信車 1台（函館開建）
- ・排水ポンプ車 2台（函館開建）
- ・照明車 2台（函館開建）
- ・待機支援車 1台（函館開建）
- ・照明ユニット 1台（函館開建）



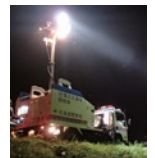
災害対策用ヘリコプター「ほっかい」



衛星通信車



排水ポンプ車



照明車

■ 災害対策訓練等

函館開発建設部では、災害や事故に迅速かつ的確に対応するため、関係機関及び自治体と連携した各種訓練や防災啓蒙活動を実施しています。



地震・津波図上訓練



自治体防災訓練（函館市）照明車・待機支援車



啓蒙活動（厚沢部町立厚沢部小学校）